

Happy-Hamakan-News (HHN)

浜医看学発 第2巻 第2号

2015年9月号

浜田医療センター附属看護学校

[http://www](http://www.hamakan-nh.jp/)

授業風景 福田先生

授業風景 院外講師 岩永先生

看護を語る 田儀先生

宿泊研修を終えて

基礎看護学実習IIを終えて

第9回島根県学術集会に参加して

高砂ケアセンター納涼祭のボランティア



独立行政法人国立病院機構
浜田医療センター附属看護学校
〒697-8512 島根県浜田市浅井町 777-12
Tel.0855-28-7788
mail : kanri-t@hamakan.nh.jp
<http://www.hamakan-nh.jp/>

発行責任者
編集責任者
編集

石黒眞吾
福田明美
田儀千代美、藤井光輝、隈部直子
小田川良子、畑中美保、世木幸雄
田中茉緒、三家本八千代
岩成美樹、松野由香、金山和正





授業「看護学概論」

教育主事 福田明美

看護学校に入学して、すぐに始まる「看護学概論」（1単位 30時間）は、看護を学ぶにあたっての基盤となる授業です。人間とはどのような存在なのか、健康とは何か、看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学び、看護師に求められるものは何かを考えます。

高校までの学習では、問いに対する「正解」があったと思います。しかし、看護の場面では「正解」が明確でないことが多いという特徴があります。なぜなら、看護は様々な人々を対象とし、同じ疾病でも個人個人で状況が異なります。さらに年齢・性別、生きてきた歴史・価値観も異なる人々に、より良い看護を提供する必要があるからです。

看護するときには、この場合何が一番良い方法なのかを考え続けなければなりません。その拠り所となるのは、やはり科学的な知識や研究から明らかになった理論や根拠です。科学的な知識や根拠を学ぶためには、とてもたくさんの学習時間が必要であり、授業時間だけでは時間が不足します。学校が終わってからも自分の時間を使って、文献を探して読み込み、記憶するだけでなく考えるという学習が大切だと考えています。主体的に学習していくという学び方を学んでほしいと考えています。

授業の中では、看護理論についても学びます。学生自身が学習したいと考える理論家を選び、9月8日に学習内容を発表しました。夏休みの間に、理論家の原著や理論を説明する厚い本を読み、意味を理解するのに苦労したと思いますが、グループメンバーと共に書かれている内容を整理し、事例も考えてクラスの皆に説明することができました。

看護するには、自分の考えていることを相手に言葉で伝える能力も必要です。授業の中で、発言する機会を多く持ち、人前で話すことにも慣れ、相手の良いところを認める言葉をかけることができるようになって欲しいと思っています。

看護の経験がほとんどない1年生にとっては、言葉を聞いてもなかなか理解できないことが多いと思いますが、看護師を目指す学生として、看護とは・・・と考え続けていって欲しいと思います。そして、看護師になってからも、看護とは何か、人間とは何かを考え続けて欲しいと願いながら授業をしています。



「看護学概論」で学んだこと

1年生 飯塚ももか



看護学概論の授業では、まず基本的な看護の原点について学びました。看護学を学び始めるにあたって、果たして看護とは何を指し、看護師はどのような職務を担う存在なのかを様々な事例や様々な看護教育学者の言葉から沢山学ぶことが出来ました。また、看護の歴史を概観することで看護の成り立ちや看護が目指す目的を達成するためにどのような役割や機能を持つべきかなどを学習し、自身の中に「看護とはこのようなもの」という概念を持つことができました。看護学概論は、看護職を目指す上でスタート地点であると考えます。

私は、看護教育学者の中でもナイチンゲールに興味を持ち、ナイチンゲールについて調べました。ナイチンゲールは、看護とは環境を適切に整え、それらを適切に活かして用いること、また、食事内容を適切に選択し、適切に与えることで患者の生命力の消耗を最小に整えることだと述べていました。新鮮な空気や陽光や暖かさを患者にとって適切に整えることで、余計なことに力を使わなくて良くなり、患者の残りの力を生命の維持に使えます。そうすることで、より早く患者が元気を取り戻すことが出来ます。また、ナイチンゲールは「病氣」ではなく存在している人そのものに目を向け、その人を取り巻く「環境」に着目しています。全身清拭のテストで、先生に「作業中もずっと患者さんを見てないといけないけど、作業が終わったら最後には必ず患者さんを確認してください。」と言われました。どうしても、点滴やその他器具の確認だけしてしまうことがあると思います。看護で大切なことは、器具などの患者の命を助けるものを見るのではなく、患者そのものに目を向けることです。授業の最初で看護とは手と目で見て護ることだと知りました。そのためには、日々、患者の記録をとったり調べたりなど、勉強していくことが大切です。患者の変化や要望に対応していくことで、患者の生命力を強くしていけると思います。

私は看護学概論を学び、一番大切なことは個々の自己研鑽であると学びました。医療技術の進歩、社会的価値の変化に伴って患者のニーズは変化します。その対象者に応じた個別的看護を提供するためには勉強をしていくことが大切です。看護職者にとって学び続けることは職業人としての使命であり、学生の段階から生涯にわたって自ら学び続けるための「自己教育力」を養っていくことが1番大切だと思いました。私はこの授業で学んだことを学生中はもちろん、看護師として働き始めてからも活かしていきたいです。



1年生 田中麻衣



4月から始まった看護学概論の授業。私は最初、なぜこんなことを学ばないといけないのか疑問に思っていました。しかしこの5か月、授業をうけてきてその疑問は自分なりに消化することができました。そして、今からまとめること、すなわち「看護学概論で学んだこと・考えたこと」こそが私の疑問の答えです。私はこの看護学概論で特にこの2つのことが印象に残りました。

まず一つ目は、“ケア”についてです。普段の生活の中でも“ケア”という言葉はよく使うことはありましたが、普段の生活における“ケア”と看護における“ケア”に違いがあることは授業を通して初めて知りました。普段の生活で使う“ケア”は広井良典さんが述べておられる「配慮」や「関心」、「世話」などの意味合いを持っています。次に医療の中で用いられる“ケア”は日本看護協会によると「看護の専門的サービスのエッセンスあるいは看護業務や看護実践の中核部分を表すもの」、また日本看護科学学会では「対象への直接的な援助行為」とされていました。すなわちこれは直接的に看護師が自分の手を使って患者の身体的な世話をすることであり、看護師が患者をいたわる関係を表しています。これは普段使われる“ケア”の中に、看護で使われる“ケア”があることを示しています。このことより私は、看護で“ケア”を患者さんに提供していくには、普段の生活から友達に対する“ケア”すなわち配慮や気遣いを心がけていかないと、ホントの看護“ケア”ができないと学びました。普段から周りに目を向け、人のために行動できる人間になろうと、このことを通して私は考えました。

もう一つは、様々な看護理論についてです。夏休み前から始まった、8人の理論家それぞれが考える看護理論を調べ、各グループが発表する授業。私たちの班は、ジョイス・トラベルビーについて調べていきました。トラベルビーは、看護は人間対人間の関係が重要であると述べていました。人間対人間の関係は1. 最初の出会い、2. アイデンティティの出現、3. 共感、4. 同感、そしてこの4つが成り立ったことで、5. レポートによって完成します。しかし、トラベルビー以外の人物は人間対人間を主点としていません。たとえばナイチンゲールはその人を取り巻く「環境」に目を向けていましたし、ヘンダーソンは「体力」「意識力」「知識」に着目して患者に不足しているそれらの「足りない部分の担い手になる」ことが看護の機能だと述べていました。この発表会を通して、私たち看護師は様々な看護理論の中から患者にあった看護理論を見つけ出し、その理論をもとに患者に看護を提供していかないといけないと考えました。なぜなら、看護の対象となる患者は一人として同じ人はいなく、年齢や性別はもちろん、疾病の状況なども十人十色であるから、全員に同じ看護をしていくことが適切でない時もあるはずだからです。ですから、いろいろな看護理論を学んで、様々な知識を持つておくのは大切だと概論を学んで思いました。

この2つのことが授業を通して学んだことで、将来現場に出てから看護の場で使えるのではないかと思います。この看護学概論を学んだ意味があったと感じました。このことを心にとめて、将来看護師になれるように、まずは勉強を頑張りたいと思います。



1年生 森井梨乃



私が、看護学概論で学んだことは、看護とは、診療の補助だけではなく、療養上の世話との両立だということです。また世話というのは、ただ世話をするのではなく、患者さんの生活歴やその時の生活背景を知り、その人の情報を集めた上で最も好ましい方法を選択し、患者ができるだけ早く自立ができるような支援をすることだということを学びました。

ナイチンゲールについての発表を通して、ナイチンゲールは、病気ではなく、その人そのものに目を向け、環境を整えることが重要だと述べていました。大切な事は、その病気に対する薬や治療や診療だけではなく、患者が自分の力を他のことではなく、自分の体力の回復に使える事だと学びました。患者さんは入院をすることで、多くのストレスや不安を抱えます。プライバシーのことであったり、環境の変化や病気への不安など、精神的なことも患者さんの力を使ってしまう要因となります。そのため看護師は、それらの要因を取り払い、患者さんが治療だけに専念できるような最適な環境を作ることが大切だと考えました。

糖尿病患者についての発表では、病気が改善されない理由として、その患者が生きてきた時代や、その人が信じるものなどにより作り上げられた価値観が関係していると学びました。私が担当した対象は、高度経済成長で、仕事が実力主義の時代に労働をしていました。そのため、長期労働が当たり前という価値観が身に付いており、生活習慣の改善を行うことができませんでした。しかし、価値観というものは誰にでもあり、それは自分なりの意味づけが必ず存在しています。このことからそれを否定するのではなく、対象者の意向を尊重しながら、その人にあった支援の在り方を考えるべきだと考えました。

看護は、診療の補助と診療上の世話から成り立っています。私は今まで診療の補助が主な役割だと考えていました。しかし、看護学概論を学ぶことで、診療上の世話の大切さを学ぶことができました。患者さんは1人1人、全く違う考え、価値観、求める治療・支援を持っています。そのため看護師は、患者さんを機械的に看護するのではなく、患者さんを1人の人として見た上で支援を提供することで、患者さんにとって最も良い治療が行えるのではないかと考えました。



1年生 矢野未侑



入学してから今まで、教科書を使って基本的なことを学んだり、看護理論家についてグループで調べ、学びを共有することなどをしてきました。私が、この授業で一番心に残っているのは、“看護とはなにか”という質問に対する答えというのは、決められたことではなく、それぞれが考えを持っていることだということです。はじめに、“看護とは”という質問をされたときに私は何が本当の答えなのかと考えました。しかし、学んでいくうちにそれぞれの看護師、理論家にはしっかりとした自分の意志があり、それを述べているものだと知りました。福田先生も授業の中で言うように、“看護とはなにか”についての答えは、経験や年齢を重ねていくごとに変化し続けられるものだと思います。将来、看護師として働いていても、自分が考える“看護とは”を常に持ち続けていきたいです。夏休み明けには、それぞれのグループで看護理論について学びを発表し共有しました。私のグループはトラベルビーについて参考書や原著を読み、まとめました。ジョイス・トラベルビーさんが述べる看護理論は「人間対人間の関係」であると述べています。「人間対人間の関係は、人間対人間の最初の出会い、アイデンティティの出現、共感、同感、ラポールの5つの過程を経て確立されるということを知り、人間関係の構築はこんなに大変なことだということがわかりました。看護師と患者の人間関係を築くのも相互に信頼感がなければなりません。特に患者は、病院の入院生活、今までとの環境の変化、病気やケガでの不安な気持ちなどたくさんの方にストレスを感じておられます。そして、会いたい家族にも会えないというのは、とてもつらいです。そんな多くの思いを抱いておられる患者に一番長く寄り添うのは看護師しかいません。その看護師が信頼できない人であれば、病院生活をしてまで生きたくないと思うかもしれません。そこで、やはり一番近くに長く寄り添う看護師は、信頼されるような存在にならないといけないと思います。それは、やはり、共感、同感などとても重要になると思います。発表のときの事例で、共感と同感を伝えるのは、とても難しく、うまく全員に伝えられなかったかもしれませんが、とても大切です。私は将来、患者と人間対人間の構築がきちんとできて、信頼感のある看護師になれるようもっともっと学びを深めていきたいと思います。教科書には多くの理論家の名前がでてきますが、名前だけ覚えるのではなく、興味を示して自ら原著を読んで、自分の身になるものを吸収していきたいと思います。この授業では、看護について、自ら知っていくということを大切にこれからも取り組んでいきます。





医療活動における心理学

人間関係論講師

広島大学大学院総合科学研究科 教授 岩永誠

私は、附属看護学校で人間関係論を教えている。心理学において人間関係論といえば、社会心理学が中心的研究領域である。しかし私の専門領域は臨床心理学であり、不安やストレスについて研究をしている。それがなぜ人間関係についての話をしているのだろうか。

人が病気になって受診したり入院したりすることは、当人にとってストレスである。特に命に関わる病気である場合、非常に強いストレスを抱くことになる。そのため、日常とは異なる考えを抱き、いつもとは異なる行動をとってしまうことがある。そのことを理解した上で、人との関わりを考えなければならない。

医療行為において、人との関わりは非常に重要な意味を持つ。患者やその家族が安心して治療を受けるためには、医療従事者との信頼関係の形成が前提である。信頼できない医師や看護師に自分の身を委ねることはできないし、病気を治したいという気持ちにもならないからである。医療従事者は患者やその家族の言動から、彼らの気持ちを理解しなければならないし、言動の裏に隠されている真の気持ちを推察しなければならない。患者やその家族は、自分の気持ちや想いに医療従事者が寄り添ってくれていると感じるからこそ、医療従事者を信頼する気持ちになるのである。そのためには、患者やその家族が受けているストレスとその結果生じる問題を理解し、共感的に向き合う姿勢を持つことが大切である。

さらに忘れてはならないことは、医療従事者も医療活動を通して過度のストレスにさらされ続けているという事実である。過度のストレスは、医療従事者に心に余裕をなくさせ、ミスをしやすくさせてしまうばかりか、患者やその家族に対して攻撃的ないしは回避的な対応を取ってしまい、関係性を悪化させてしまう危険性も高めてしまう。そのことが医療活動に悪い影響を及ぼしてしまうことになる。医療従事者は、自分のストレス状態を的確に把握し、患者やその家族への対応に対するストレスの影響をコントロールしなければならない。しかし、医療従事者の取りうるストレスの対処法は限られていることから、可能な対処法をより有効に活用することが課題となる。

カウンセリングや精神分析の印象の強い臨床心理学であるが、行動科学を基盤としたエビデンスに基づいた臨床心理学は、医療場面にとどまらず、企業等の職場、学校、家庭といった様々な場面で起こるこころの問題の解明や解決法の実施に役立てられているのである。私の専門の一部の宣伝みたいな文書となってしまったが、こうした学問領域があるということを知っていただき、より良い医療活動に活かしてもらえると幸いである。



～A君と私～

実習調整主任 田儀千代美

看護師5年目で、筋ジス病棟（思春期）での出来事は、何年過ぎても忘れられない場面である。

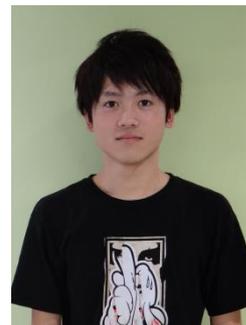
彼は、（以下A君とする）筋ジス病棟へ小学校5年生の時に入院し、高校1年生16歳で天国へと旅立った。A君は、進行性筋ジストロフィーを診断され徐々に進行し、自分の足では歩けなくなり、車椅子生活を余儀なくされていたが、病院の隣に併設された養護学校に通いながら、日々過ごしていた。まだ車椅子に移動できる機能はのこされていたが、病状の進行と共に、病魔は心臓の機能まで蝕み、心不全が進行しベッド上安静を強いられるようになっていった。それでも、A君はいつも笑顔で過ごし、同室の患者や看護職員を笑わせていた。私は、A君の担当になるとA君の好きな足浴に時間を掛けて行っていた。足浴をする時には、A君はいつも「人の役に立つ仕事をしたい」「結婚して楽しく生活する」等と夢や自分の将来を語っていた。一度だけ、「なんでかな～俺まだ何もしていないし。くっそー」と自分の足を叩きながら涙を流し世間の16歳が経験できることができない悔しさを話すことがあった。しかし、進行性筋ジストロフィーの進行は容赦なくA君を襲い、個室での病状管理になったが、それでもA君は看護職員を目にすると、手を挙げ笑顔で挨拶をしようとしていた。段々と口数も少なくなり、笑顔も減ってきた。私が深夜勤務で、朝食介助を行いお粥を茶碗半分摂取した後、「田儀さん今度いつ来る？」とA君より訪ねられ、「今度は2日後の準夜勤務に来るからね、待っててね」と言葉を交わし、勤務を終えた。2日後、準夜勤務に出勤すると、2日前の日勤帯から意識レベルが低下していた。私は、少し覚悟はしていたが、「田儀看護師さんいつ来る？」の会話が最後になってしまった、と思いながら部屋に訪室すると、母親、祖母が心配そうにA君を見つめていた。酸素マスクを装着しベッドに横たわっているA君に「A君来たよ」と頭を触りながら話し掛けた。すると、一瞬A君は開眼し、目が合い頷いた。その直後に心電図モニターの心拍数が、0を示しモニターのアラームがけたたましく鳴りだした。そして、A君は16年という人生を終えることになった。

最後に、病棟からA君を送り出す時にご家族から「田儀看護師さんの足浴はいつも楽しみにしていました。看護師さんがする足浴はいつも喜んでいました。」と言葉を頂いた。足浴は、清潔援助の1つでもあるが、A君が好んでおり、笑顔での会話が多くなり、とても楽しみにしており、リラックスできる援助だと考え積極的に実施していた。少しずつ歩けなくなる足はA君自身の大切な体の一部であり、丁寧に足浴を行った。A君との足浴は、ゆっくりとした時間の中で、大事な足に触れ会話を繰り返すことで信頼関係が深まっていたと感じる。信頼関係が深まったことにより、A君と最後の別れの時間がもてたと感じた。少々、強引ではあるが最後の力を振り絞り待っていてくれていたのではないかと感じている。

看護教員として、看護技術は患者との信頼関係をつなぐ大きな役割を果たすということを学生に伝え続けていきたい。

宿泊研修を終えて

1年生 森口豪



今回の2泊3日の宿泊研修で私は運営委員長として63期生をまとめる役割を行うことになりました。最初に委員長として選ばれたときは正直、「楽しそうだから」という理由でやっていました。しかし準備期間では、その甘い考えが仇となりなかなか話し合いが進まず、先生方にも「自分たちがなぜ宿泊研修に行くのか、目的・目標を踏まえた行動計画を立てるように」とご指導頂きました。情報伝達が上手くいかず集団をまとめることの大変さや責任というものを改めて感じる事ができました。

頼りない委員長だったと思いますが周りの人達の支えもあり、自己を見つめ直し仲間との絆を深められた宿泊研修になりました。弥栄体験村の職員の皆さん、先生方、そして63期生の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。



竹盆栽作り



弥栄めぐり

1年生 矢野未侑



今回の宿泊研修では、様々な活動を通して、クラスメイトの新たな発見やクラス全員の団結力、思いやりの心など3日間で素晴らしい経験をさせていただきました。私は副委員長として研修前から、委員長と中心になり計画を立てていましたが、当日は雨の影響で予定変更が結構ありました。しかし、みんなが協力体制をとり、弥栄体験村のスタッフのみなさんも協力してくださり、私達は困ることなく楽しむことができました。

全員で企画したレクリエーションや一人ずつの良いところを書いた色紙も成功し、親睦が深まったとともに、大切な宝物となりました。体験村の職員の方・先生方ありがとうございました。



保健体育
中村聡先生の講義
ストレッチと
アロママッサージを
体験中



1年生 小池愛莉



2泊3日の宿泊研修で、色々な体験をしました。入学してから宿泊研修まではクラスの協力体制があまりなく、話したことがない人がいました。しかし、この研修でクラス皆がすごく仲良くなって色々な人と話をするできるようになりました。クラス皆でバーベキューやブルーベリー狩り、ヤマメの掴み取りなどを体験しました。特にバーベキューの火おこしはすごく熱くて大変だったけれど、班の人と一緒に頑張り協力できて、終わった後の達成感がすごくありました。クラスの皆と一緒にご飯を食べて、一緒にお風呂に入って2泊3日という間だったけれど、とてもたくさんの体験をしました。夜は皆1人1人の色紙を書いて、最終日にもらった時にすごく嬉しくて感動しました。クラスの皆の良い所を発見できてよかったので、この宿泊研修はすごくクラスの仲を深めるために大事な研修だと思います。この研修で、クラスの協力体制も深まったと思うので、これからの学校生活に活かしていきたいと思います。



食事を作ったり、食べたい大忙し



豆腐作り



ヤマメの掴み取り

1年生 福田純生

今回、準備の段階から運営委員を中心に計画を立てました。全員が楽しめる宿泊研修になるようにと計画を立てました。満足のいく宿泊研修になりました。そして、みんなが大きな怪我をせずに帰ってきたことがなによりよかったと思います。当日は、事前に話し合いを何度も行っていた為、計画通り行動することができ、この宿泊研修では、たくさんのイベントやゲームを通して様々な班で活動を行い、今まであまり話したことのなかった人とも話す機会が増えて、より親密で団結したクラスになったのではないかと考えます。これからもこの団結力を活かして学校祭などの行事や、日々の学習に取り組んでいきたいと思います。



夜は花火をしました

1年生 室下月美

この宿泊研修は計画を自分たちで立てるところから始めました。最初はなかなか計画を立てることが進まなかったり、計画が立っても目標が合わなかったりと大変なことばかりでした。しかし、リーダー達が頑張っている姿を見て少しずつ皆が協力してくれるようになり、準備も進み始めました。研修をしている最中も普段から一緒にいる人だけでなくクラスの色んな人と関わることができたので、今まで気付かなかったクラスの皆の良さを知ることができました。

そして、リーダーの提案でクラス全員の良いところを色紙に書いてプレゼントしました。3日間という短い期間で39人と先生2人分を無事全員が書けたのは、皆で声を掛け合って空いた時間に書いたり協力できたからだと思います。今後も勉強や実習が難しくなっていくのでこの時のように協力していきたいです。



BBQの火おこし頑張ってます



スイカ割りもしました

1年生 人見直子



入学してから3ヵ月と少し、クラスの皆が少しずつ仲良くなってきている時期に宿泊研修という行事があったことで63期生全員が一気にまとまったような気がしました。リーダーを中心に全て自分達で2泊3日のスケジュールを決めました。委員長の森口君や副委員長の矢野さん、運営委員の皆のおかげで無事計画は完成し、楽しく充実した宿泊研修になりました。私達63期生はととても思いやりのある人達ばかりです。今回の宿泊研修で、準備の段階からお互い協力しあい、団結できるクラスなんだと改めて実感することができました。そんな63期生の皆や先生方がもっともっと大好きになりました。これからも、クラス全員で助け合うことができる63期生でいたいです。



そうめん流し

竹の準備から頑張りました



帰る5分前までゲームで盛り上がっていました



基礎看護学実習IIを終えて

2年生 井田 菖太

今回の実習で私は誤嚥性肺炎で入院された90歳代の男性のA氏を受け持ちました。A氏は食べようとするむせてしまうため食事摂れず、点滴によって栄養を補っていました。「何も食べていないから時々空腹を感じることもある」と話し、食べたいという希望を持っておられました。私は少しでも早く食事を食べられるようになってもらいたいと思いました。受け持った次の週には嚥下食が始まり、A氏はむせることなく普通食を食べられるまでに回復しました。しかし、A氏の食事の様子を見ていると周囲を気にして周りをキョロキョロと見回し、食事に集中できていませんでした。集中できていないということは誤嚥のリスクを上げることになるため、カーテンを閉め切ることで食事に集中できると考えました。グループでの話し合いの時に相談すると他のメンバーや指導者の方、担当教員から「それを自分がされたらどう思うか」と聞かれ、私は食事を食べてもらうことにばかり集中していて、食事の意義などは考えていなかったことに気がつきました。そのため楽しく食事を食べられるように考えた声かけや関わりをしていきました。具体的には、閉ざされた空間で食べることは精神的に苦痛を与えると考え、窓から外を見て景色を楽しみながら食事をしてもらうことや、出てきた食事に対して「これは何ですかね？」などのメニューや食材に興味を持ってもらうような声かけをすること、車いすに座って姿勢を保持することなどを行いました。

今回の実習では退院まで受け持つことは出来ませんでした。12日間という今までで一番長い実習を経験して、患者さんの回復していく過程に関わり、看護師としてのやりがいを改めて感じる事が出来ました。また自分の考えだけでは偏った考えになることもあるため、他者から意見をもらうことも重要であると気づくことが出来ました。

今回の実習で一番大変だったことは、看護過程の展開でした。今まで授業で行った看護過程の展開では、最初から患者さんの情報が提示されていて、状態も変わることはありませんでした。しかし、実際の実習では自分自身で患者さんと向き合って情報を収集すること、さらに患者さんの状態は毎日変わるということで情報収集やその情報を整理することの大変さと大切さを実感しました。他にも看護計画の立案の仕方や関連図なども難しかったです。

課題は二つあります。一つ目は自分を主体にして日々の行動計画を立てていたことです。看護をする上で、患者さん主体で考えられるよう意識を変えていくことが必要と感じました。二つ目は技術の未熟さです。今回実践させていただいたことで、まだまだ色々な状況に対応する力が無いと感じたので、練習を重ねて少しずつ成長していきたいと思っています。



第9回島根看護学術集会に参加して

3年生 大島涼

今回、第9回島根看護学術集会に参加して様々なことを学ぶことができた。最初に、一般演題を聴講した。1 題目はクリーンルームに入室した血液疾患患者の習慣的な運動の必要性と方法についての研究であった。クリーンルームは同じ空間での生活であるため運動制限がかかってしまう場合がある。そのため必要となってくるのは患者に筋力低下が起き易いことを伝え、少しでも運動してもらえるよう勧めることである。医療者は化学療法後に運動意欲がわからないことを理解して運動内容と開始時期を患者と相談し、患者の個別性に合わせた運動方法を考えていく必要があることを学ぶことができた。

2 題目は60歳代男性白血病患者の告知後の心理的变化と口腔ケアマネジメントの必要性についての研究であった。化学療法を行うと副作用として口内炎が出現する。そのため予防として口腔ケアを行う必要があるが、患者の心理状態によっては拒否されることもある。患者の心理状態に合わせて、思いをくみ取りながら忍耐強く口腔ケアの必要性を伝え続けたところ、「口内炎ができれば痛いからせんといけんね」との発言も得られるようになった。ここでは、患者の心理過程に応じてその時々で患者へのアプローチ方法を変えていかなければならないということを学んだ。

午後からは特別講演を聴講した。「2025年への看護の役割と課題」をテーマにした講演であった。現在日本は少子高齢化が進み、高齢者人口が増加している。2025年には人口の多い団塊世代が後期高齢者になり、それまでに後期高齢者増加に対応できるよう医療を考えていく必要があるという内容であった。高齢者が増加していく中で、入院患者が増えて病院で対応できなくなることが考えられるので、予防的な関わりが大切であり、いかに高齢者の健康寿命をのばしていくのかということが課題であるとわかった。そのため看護としては保健指導を行っていくことが大切であり、慢性期医療が大切になってきている状態であることを学んだ。また、訪問看護や訪問介護など地域包括医療の重要性も学んだ。島根県は今後も高齢者が増加し続けることが予想されるため、現在使われていない施設などを、「看護小規模多機能施設」という形で有効活用すると良いのではないかという話もあり、大変興味深かった。今、自分にできることは、社会全体の動きや、島根県という地域の動きを把握し、将来的にどのような医療や看護が必要とされるのか考えながら、様々な知識を身につけていくことであると思う。今回の特別講演は具体的な数字を用いて、身近な島根県の医療問題にも触れられており、学生にとってもわかりやすいものであった。

今回の一般口演や示説、特別講演において看護師として働くことになる自分がどのような知識、技術、態度を身につけなければならないのか学ぶことができた。この学びを今後活かしていきたい。





高砂ケアセンター納涼祭のボランティア

2年生 須藤瑠衣子

高砂ケアセンターの納涼祭が平成27年7月24日（金曜日）に開催されました。浜田看護学校からは、6名ボランティアとして参加しました。2年生4名、1年生2名参加し楽しいひと時を過ごしました。

私は、高砂でのボランティアは2回目ですが、昨年の文化祭の時には主に模擬店で手伝いをさせて頂きました。納涼祭では、1人の利用者さんを担当することになりました。病院実習以外で高齢者の方と関わるのが初めてのことで、とても緊張しました。始めは何から話かけて良いのかと緊張しましたが、一緒に神楽をみていると、利用者の方から、神楽を指差しながら「いいね～」と私の方を見ながら笑顔で話かけられました。その笑顔を見て緊張がとれ、自分から「屋台を見てくださいませんか？」と話かけることができ一緒に屋台を見て回ることができました。僅かな時間でしたが、自分の知らない話を聴き新たな発見をすることができました。楽しそうにされている笑顔を見ることで、ボランティアに来ている私が元気を頂くことができました。ボランティアを通して色々な方々に出会い話笑顔を見ることで、自分自身が癒されていると感じました。今後も地域のボランティアに積極的に参加して行きたいと思います。



2年生 藤原拓也

今回、高砂デイケアセンターへボランティアに参加させて頂き、今迄の病院の実習では実践できないような事を体験することができました。

ボランティアでは、始めに利用者さんとコミュニケーションを取りました。「今日の納涼祭に興味があるものは何ですか？」と尋ねると、その利用者方は、「神楽が好き」とはっきり返事をされたので、早速外の広場に設置されている神楽の会場に行き、一番前の場所を陣取り、一緒に神楽を観ました。神楽を観ている表情は真剣で、本当に嬉しそうにされていると感じました。

神楽の会場までは、車椅子での移動でした。今迄は、病院の中での車椅子移動だった為、段差を超える様な所が無く自分ではできると考えていました。しかし、高砂ケアセンターの場所は、病院とは違い、段差があったり坂道があったりと少し慣れない場所の移動で不安がありました。講義で習った事を思い出し、利用者の方が車椅子から落ちないように、ゆっくり移動し、利用者の姿勢を観察しながら移動しました。又職員の方の丁寧な移動や、利用者の方が安心できる声を掛けのタイミング等を真似することで、安全に移動することができました。今迄習った技術を様々な所で実践できるようになったことにとても嬉しく感じました。

納涼祭が終わった後、「とても楽しかった、ありがとう。」と言って頂いた時は本当来てよかったと思いました。これからも色々なボランティアに参加し、人との関わり方を含め多くの技術を学び、自信を持って患者さんに提供できるようにしていきたいです。



今後の予定

- 10月14日 特別推薦入学試験
- 10月17日 学校祭1日目
- 10月18日 学校祭2日目
- 11月11日 一般推薦入学試験
- 12月9日 ナーシングセレモニー
- 12月18日 終業式
- 1月7日 始業式
- 1月21日 一般入学試験
- 3月4日 卒業式

学校祭 2015



～深めよう地域とのつながり
 団結しよう学年を超えた友情～

祭

10
17
Sat

5階講堂 映画
 「うまれる ずっと、いっしょ」
 一般上映：9時10分～ ¥300円（6歳以下は無料） 定員40名まで
*事前申し込みは電話又はホームページから行えます。 *10月は観覧月間です

18
Sun

「浜田駅北医療フェスタ」と同時開催



- 1F ちびっこランド スタンプラリー会場
 こどもが遊べる工作、お絵かき、ボールプール
- 2F ハンドマッサージ、復興支援（手作り手芸品販売、募金）など
 被災地の方が作られたプレスレット、しおり、財布などを販売
- 3F フリーマーケット
 売り切れ御免！
 日常雑貨などが安い

- 4F 模擬店
 うどん、フランクフルトなど格安
- 5F イベント、無料カフェスペース
 10:00 少年少女合唱団 パフォーマンス 11:00
 10:20 手話 少年少女合唱団 パフォーマンス 13:30
 11:00 神楽

日時：平成27年10月17日（土）・18日（日）9時半～15時
 場所：浜田医療センター附属看護学校 TEL:0855-28-7788
 URL:<http://www.hamakan-nh.jp/> 主催：学生自治会

編集後記

夏休みが終わり、新学期が始まりました。2～3年生は夏休みが終わってからすぐに実習が始まり大変そうです。10月には学校祭があり、それに向けての準備をすすめている最中です。今年度からHappy-Hamakan-Newsも新しい試みに入り2冊目を発行することになりました。これからも学校の様子・行事等をわかりやすく伝えていければと思っています。今後もよろしくお願い致します。



総力をあげて準備中！！
 是非お越し下さい！！

独立行政法人国立病院機構
 浜田医療センター附属看護学校

〒697-8512 島根県浜田市浅井町777-12

TEL:0855-28-7788

mail: kanri-t@hamkan-nh.jp

<http://www.hamakan-nh.jp/>